

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171700509		
法人名	社会福祉法人 恵和会		
事業所名	グループホーム 花の木(第1ホーム)		
所在地	岐阜県恵那市大井町 2709-72		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	平成25年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2171700509-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

森林の中にある木造作りの平屋で四季を通じ自然豊かな環境の中、地域の皆さんにも支えられ穏やかで時には、行事・催しによりにぎやかに楽しく暮らしています。安らぎのある生活を共に支え合い、個々を尊重し予防と機能維持の取り組みを楽しみながら自立支援に繋げています。天災・災害時に際しても助け合える関係作り、安心安全な生活が維持できる様に地域の方々、関係との繋がりを深め、広げて行くよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、木造建築平屋づくりで広い庭を持ち、森林に囲まれた自然豊かな環境にある。地域社会とのつながりを重視し、地域住民とは、親密な関係を築いている。学生が庭の手入れを担当し、定期的に訪問している。地域住民へは、介護相談の窓口を設け、介護で悩む人を支援している。管理者・職員は、利用者が安心・安全な生活が送れるように、常に介護技術の向上をめざして研鑽を重ね、理念である「穏やかで安らぎのある暮らし」を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(第1ホーム)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念・方針を原点に地域密着型サービスとしてホーム独自の理念を作り、目に付く場所に掲げ共有・意識づけに努めサービスの実践に繋げられるような取り組みを進めています。	「利用者が穏やかで安らぎのある暮らし」を理念とし、入り口通路の壁に掲げ、毎日確認している。また、職員会議でも理念を共有し、実践を振り返りながら、利用者の穏やかで安らぎのある暮らしにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域社会との繋がりを常に意識し事業所から歩みよる事に努め、回覧版により挨拶や行事へのお誘い、地域住民との交流においても徐々に深まっています。	自治会とは常に連携を取り、地域の行事、ホームの行事を紹介し、相互に交流している。地域の祭り、保育園との交流、学生の職場体験、介護相談などを受け入れ、住民との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に訪問、行事への参加をしてもらい交流を持つ中で生活状況を理解して頂ける様に努めています。地域の高齢者の暮らしに反映出来る様な働きかけ取り組みに努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で入居者の近況、事業所の取り組みを報告するだけでなく災害時の対応、勉強会を行う中で推進委員の方々から率直な意見を頂き理解して頂けるように努め、サービスの向上に活かしています。	会議は、隔月に開催し、行政、地域関係者、家族が参加している。介護相談員も会議に加わり、多様な視点での協議を行っている。事業所の取り組みに対する課題も検討し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議を通じて連絡・情報交換に努めるだけでなく、介護相談員さんの訪問により市町村との連携、家族からの問い合わせ等を電話やメールで相談し、協力関係を築いて行ける様に努めています。	市の担当者とは、運営推進会議で意見を交換し、事例検討や情報交換を、毎回行っている。利用者家族から行政に対する申請手続きの代行や、相談などで窓口に向き、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に身体拘束をしない意識づけや拘束をしない援助に取り組んでいます。利用者に対して緊急やむおえない場合にはスタッフと家族で話し合い同意を得ていますが代替策を検討していきます。玄関は夜間のみ施錠しています。	全職員が拘束の弊害を正しく理解し、拘束しないケアを周知・徹底している。利用者の表情を受け止め、寄り添いながら、自由な行動を妨げないように支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会の参加に努め虐待防止への意識をミーティングで徹底できるようにしています。家族にも拘束の弊害を説明し協力して頂ける取り組みを行っています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修、勉強会で学び、関係者との連携を密にとり入居者に活用するだけでなく家族にも制度について理解して頂ける機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設見学を依頼し、入居時・解約時の説明、改定時の同意はもちろんのこと入居後の様子・状態変化に応じて家族へ連絡し、今後の援助方針も含めて確認に努め理解を得ていきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、近況報告を通じて面会・行事の際、家族からの意見や要望を聞けるようにしています。平成20年度よりサービス内容のアンケート調査を家族宛に実施、結果をミーティングで話し家族の心情を察していけるように心がけていきます。	家族からは、家族会で意見求めたり、訪問時にも意見を聞くようにしている。また、アンケートで意見・要望を確認している。「職員間で意見が違う、外出の機会が少ない」などの意見があり、改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、意見・提案に耳を傾け詳しく把握できる様に記録にも目を通し内容を確認し、スタッフ間とのコミュニケーションに努めています。	全体会議、ユニット会議で、職員の意見を聞いている。鍵を掛けないケアについては、利用者の気持ちを理解するための具体的な提案があり、改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の姿勢や意欲を把握する様にコミュニケーションに心がけています。人事考課制度導入によりスタッフとの面接により努力・実績を理解し評価する中で意欲に繋がるような環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個々の力量を把握し研修・勉強会への参加により実践に活かせる知識や技術を身につけていける取り組み、役割・担当を持つ中で、資格取得への協力を行い質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流、事業所内の勉強会、福祉機関・地域事業からの案内を詳しく伝達し、積極的に参加を進め、交流を図るとともにミーティング等の機会に再度、職員間で把握を行いサービスの質を高めることに活かしていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に初期利用において生活暦を基に個別ケア・傾聴に努め、本人の気持ちを受けとめサービスに繋げていくことで本人、家族との信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時より家族状況、思いを傾聴しサービスの内容・方向性を話し合い、協力の依頼、同意を頂きながら信頼関係を築いていける様になっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状、本人、家族が必要とする支援の把握に努め、担当の介護支援専門員・法人内の専門職とも連携を図り、初期段階での支援に活かし、馴染んでもらえるように働きかけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共生の中で尊厳を持って関わり、お互いを支えあう中で生活暦・強みを知ることに努め、活かしていくことで信頼関係を強めていきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め、本人との家族関係を把握し、本人と家族の支援者であることを理解し、共に支え合っていくことで信頼関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の配慮や家族の協力を得ながら手紙・電話・訪問・外出を通じ馴染みの関係が継続出来る様に、入居者の状態に合わせた援助に努めています。	隣人、友人、同級生の訪問が多く、別室を提供し、気兼ねなく過ごすことができるように支援をしている。受診の帰りに家路の近くを通ったり、買い物、喫茶店にでかけ馴染みの関係が途切れない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態把握に努め、関わりを持つ中で利用者同士の関係を探り日課、活動を通じてお互いの存在を認めるあえる様、配慮する中で支援に心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても方向性に沿った相談や支援に努め、次の環境でも安定した生活が維持出来る様に情報提供にも心がけ本人、家族との関係が維持出来るように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活状況において関わりを通じ思いや希望の把握に努め、家族とも連携を取りミーティング帳に記録し職員間で共有する中で意思の尊重・自己決定に心がけています。	日常の関わり、入浴介助、個別対応の場面などで、一人ひとりの思いや意向を把握している。把握が困難な人は家族から情報をもらい、その人らしい暮らしを尊重するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、面会の際、家族との関係に配慮する中で生活歴や個々に関する情報を把握し、本人とも関わり個々を理解することに努め、その人らしく生きて頂けるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、ミーティング、個人の記録を通じて一人ひとりの生活状況、状態把握に努め、変化を見逃さずに総合的な目を養いチームケアに活かしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に本人や家族の思いを確認し、アセスメントとモニタリングを繰り返し、職員間で検討し介護計画の作成に繋がっています。家族同席のカンファレンス会議を行い意見交換を行い介護計画に活かし、サービスを行っています。	利用者、家族の意見を取り入れ、職員会議で意見やアイデアを出し合い、介護計画を作成している。家族からの新たな要望や、状態に変化があれば、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況や介護計画による実践を記録記録するだけでなく気づきを具体的にわかり易く記すことに努め、ミーティング帳の活用も合わせて情報を共有し介護計画の見直しに繋がっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して、法人内の事業所の専門職に相談し助言、協力を得ながら多様な援助方法中で柔軟な支援につなげます。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の生活歴や生活環境に関する地域資源を把握し、ボランティアや関わりのある方と繋がりを持ち、協力し安楽ではりがもてる生活が出来る様に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々受診状況と家族の希望を優先し継続的な医療を受けて頂いています。書面で主治医に状況を伝える等の連携を図り家族にも現状を理解して頂けるように受診対応の協力・同行を依頼しています。	契約時に、協力医の体制を、本人・家族に説明している。協力医は、月に2回の往診を行っている。個々のかかりつけ医や専門科への受診は、原則家族が対応し、緊急時には、ホームの職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師との連携の基に状態観察に努め、変化や気づきを申し送り適切な対応を迅速に行えるように努めています。月2回、医療相談として看護師が訪問し指示、助言により対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	受診の際、本人の情報提供に努め、主治医との関係作りに努めています。入院の際は安心して治療に専念できるようなサポートをしています。入院後、経過にそって連携を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、事業所としての方針や方向性を書面を基に家族に説明し同意を得ています、そのうえで今後の生活環境を視野に入れた支援に努めています。	重度化や終末期の対応について事業所の方針を書面で同意を得ている。早い段階で関係者が話し合い、不安や希望を受け止め、適応施設、医療機関の紹介を行っている。現在、終末期支援は行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時のマニュアルを見直し、実践の徹底と研修会、勉強会に参加し適切な対応が迅速に出来るように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の励行、消防署の指導を受け色々なケースに対応出来る様に努めていきます。地域との協力体制を築き、呼びかけも行っていきます。必要物品の確認も行っていきます。	年に2回、消防署指導の下、火災訓練を実施し、初期消火、連絡網、避難誘導訓練を実施している。夜間を想定した訓練を行っているが、取り組みに対する改善や、地域との連携等が、検討課題となっている。	目標計画に沿い夜間を想定した訓練のなかでの課題解決に向けての取り組み、更に、地震対策の検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し状態に沿った援助、関わりの中で言葉使い、プライバシーの徹底において常にスタッフ間で確認しあう様に努めています。	人生の先輩として尊敬し、敬う気持ちで日常的に会話をしている。入室時、介護の場面などでの声かけは、優しく、ゆとりを持って対応をしている。職員間で気づきを共有し合い、改善につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活においてふれあい、利用者の思いや希望の傾聴に努め更に表情、状況から思いを受け止め職員間で共有し支援に繋がっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課の中で出来る限り一人ひとりの生活リズムを大事にしてペースに合わせながら希望・思いを取り入れた援助に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利美容の活用・化粧やネイルの実施や洋服の好みやお気に入り尊重し、その人らしさ、身だしなみ、おしゃれに活かせるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査、リクエスト、行事・季節メニューを行い食への楽しみに繋がっています。食事に関わる役割を持って頂く中で個々の力量を発揮出来るように支援していきます。	嗜好調査で、リクエストの多い食事の提供に努めている。旬の野菜、郷土料理を採り入れた食事を楽しんでいる。朴葉すし、五平餅など利用者と共に作り、下準備や後片付けを利用者が手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーメニューを実施し栄養面の知識向上に努めています。個々の食事・水分量をチェック表にて把握し状態に合わせて支援に繋がっています。日頃より関わりながら習慣の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院による検診・勉強会において口腔ケアの必要性を理解し、一人ひとりの口腔内の状態とケアの状況に応じて支援しています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導表、尿量、排便チェックから個々の排泄状況を把握し、トイレでの排泄動作の維持と不快感の軽減に努めています。	個々の排泄パターンを把握し、さり気ない誘導で、自立に向けた支援をしている。個々の状態に応じ、尿取りパッドのサイズの変更、紙パンツも布パンツに変更するなど、オムツ用品の使用量を軽減している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所時、家族から排便状況を確認し、チェック表から排便間隔を予測し自然排便に繋げられるように飲食物・運動・散歩等で予防し経過を主治医に繋げています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2ホームで入浴の時間帯を変えており個々の希望、入浴状況に応じて曜日やメンバーに配慮し心地良く、安全に入浴して頂ける様に努めています。	入浴は週3回を基本とし、入浴時間は、利用者の希望に応じている。ゆずや菖蒲湯などで、季節感を楽しんでもらっている。入浴拒否の利用者は無く、安全で負担感のない、入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムの中で安眠や休息が取れるように生活状況や心身の状態把握に努め、日中の傾眠要因や環境においても配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的、用量、副作用を理解し誤薬防止の対応として呼名にて手渡し服薬管理に努めています。服薬後の状態を把握し医療職、主治医に申し送りを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦、残存機能を役割や楽しみに活かすことで気分転換や生活意欲を高められるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援、外出において希望にそった対応は充分に出来ていませんが家族の協力、地域のイベント、法人内の行事に参加しています。喫茶やドライブと少人数の支援を行っています。	近隣の散歩が日課となっている。庭で体操や草取りなどで戸外に出ている。希望者で喫茶店、買い物、病院受診の帰りに希望の場所に寄るなどの支援をしている。遠方への外出する機会が少なく課題である。	本人の希望を把握し、普段は行けない場所へも、家族や地域の協力を得ながら、個別の外出支援への取り組みに期待したい。

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に応じて家族と話し対応しています。預かり金の収支報告を定期的に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状の作成を活動に取り入れ、希望に応じて手紙のお手伝いをしています。携帯電話の使用についても受け入れています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全性のみにとらわれず、居心地良く落ち着いた空間づくりを利用者とともにしています。季節感が感じられる物、馴染みの物により五感を活かせる居場所づくりに努めています。	共同の空間は、洗面台やトイレの数が多く、利便性の高い造りになっている。居間には、ゆったり寛げるテーブルやソファを設置している。窓からの眺めがよく、季節感を味わうことができる。利用者の作品を掲示し、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有ルーム内でソファや座椅子の配置を工夫し個々で落ち着ける、気の合う方と過ごせる居場所づくりに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物・家具の配置など危険性を視野に入れた対応を行い居心地良く過ごして頂ける様に努めています。	和室、洋室があり利用者の状態に合わせている。本人が気に入った表札や暖簾を掛け、自分の部屋が分かりやすい工夫をしている。馴染みの姫鏡台、仏壇等を持ち込み、安らげる居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造づくりで段差のないオープンフロアで個室の入り口な好みによりのれんや作品を飾らして頂く。トイレや洗面では私物の物を置き、自立した生活に繋げています。		